

《平安時代初期の政治～摂関政治》

次の文章を読み、下記の問に答えよ。

(25 点)

8 世紀末に即位した桓武天皇は、律令体制再建を志し、平安京への遷都を初めとする政治改革を実施した。とくに①地方政治や軍制の改革を積極的に推し進めたが、十分な成果を得るまでには至らなかった。また、天皇は蝦夷征討にも力を入れ、律令国家の支配権を広げた。桓武天皇の改革は嵯峨天皇にも引き継がれ、社会の実態に応じて律令を運用するための諸改革が行われた。

一方で、810 年の薬子の変において（ 1 ）が蔵人頭として嵯峨天皇に取り立てられたのを機に、藤原北家が台頭し、有力他氏を排斥しつつ天皇との姻戚関係を築くことにより、勢力を伸ばした。10 世紀前半には一時天皇による親政が布かれたが、969 年に起きた（ 2 ）で左大臣の源高明が大宰府に左遷されると藤原氏の貴族社会での地位は揺るぎないものとなり、以後摂政・関白がほぼ常置され、それを藤原氏が独占するという摂関政治が行われた。

藤原氏が勢力を伸ばしつつあった 9 世紀前半から 10 世紀前半にかけては、律令体制再建の努力が続けられ、②法制の整備などが行われたが、摂関政治期になると、政治は先例と儀式を重んじる形式的なものとなり、律令体制の形骸化と変質が進行した。

問 1 文中の 1・2（ ）に適する語句を記せ。（4 点）

問 2 下線部①に関して、桓武天皇が行った「地方政治や軍制」に関する制度改革について、具体的に 80 字以内で説明せよ。（11 点）

問 3 下線部②に関して、この時期には三代格式が編纂されたが、この格・式とはそれぞれ何のことか。三代格式の具体的名称と編纂を命じた天皇を挙げつつ、70 字で説明せよ。

(10 点)